

意見書案第2号

子どもの健康に配慮したマスク着脱の周知を求める意見書について

上記の意見書案を別紙のとおり、会議規則第14条第1項の規定により提出する。

令和5年6月15日

取手市議会議長

金澤克仁 殿

提出者 取手市議会議員 山野井 隆

〃 〃 岩澤 信

〃 〃 染谷 和博

〃 〃 根岸 裕美子

## 子どもの健康に配慮したマスク着脱の周知を求める意見書（案）

5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は分類がインフルエンザ同様の5類へ移行し、マスクについては3月13日から個人の自由な判断で着脱が可能になりました。

今後の感染予防対策について、政府が発信するガイドラインは、個人の判断を尊重しつつも、警戒を促す表現も併記されていることから、マスクの適切な着脱シーンの判断を決めかねている国民も多いのではないかと推察されます。リサーチ会社の調べでは、62%が今後も変わらない頻度でマスクを着用すると回答しました。また、どのような変化があればマスクを外すのかについては、57%が周囲の人がマスクをしなくなることに回答しています。このことは2020年春から今日まで3年にわたってコロナ感染の恐怖を、ありとあらゆるマスメディアが四六時中放送し続けたことや、日本の国民性が影響していると考えられます。しかしながらコロナ禍から3年以上が経過し、マスクの長時間の着用が次のような健康被害につながることに警鐘を鳴らす学識者の文献も多く見られるようになりました。

- ① 口呼吸になりがち（特に子どもに顕著）のため、呼吸器にウイルスが直入するリスクの上昇
- ② 二酸化炭素の再吸入による片頭痛
- ③ マスクに付着した飛沫が乾燥した後の飛沫核が一気に飛散する可能性
- ④ 血中炭酸ガス濃度の上昇や、不織布マスク等からのマイクロ・プラスチック、一部製品の接着剤・漂白剤等の長期吸引による健康被害の可能性
- ⑤ 言葉が聞き取りにくく、表情での伝達も困難になること。
- ⑥ 子どもが表情を認識したり、表情で意思疎通する機会がないなど発達への影響
- ⑦ 難聴者が唇の動きを読めないこと。
- ⑧ 暑苦しきの心理的影響も含めた熱中症リスク

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部の決定では、卒業式におけるマスクの着用について【卒業式の教育的意義を考慮し、児童生徒等はマスクを着用せず出席することを基本とし】と表記されているにもかかわらず、ほぼ全生徒がマスクを着用していた学校もありました。このような情報を保護者や児童・生徒が認識していなかった可能性もありますが、今後は総合的な健康を視点とした共通理解が必要と思われます。また、気温の高い中でも屋外での単独の散歩や野外活動でマスクを着用する高齢者の姿も数多く見られ、熱中症が危惧されます。昨年の熱中症での搬送者が例年に比べ倍増し、今年はさらに電気代高騰により、節電に気を配りながらの夏場を迎えることを考えると、注意が必要です。本来は国が積極的に着用を推奨しない場面についてもアナウンスすることが必要であると考えます。同調圧力や今までの惰性で着用するのではなく、場面に応じて抵抗なくマスクを外せる環境づくりを目指し、下記の事項を求めます。

### 記

- 1 子どもの健康に配慮したマスク着脱の周知を徹底すること。
- 2 マスク着用を推奨しない場合についても積極的に周知すること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

令和 5年 月 日

茨城県取手市議会

【提出先】衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 内閣官房長官 厚生労働大臣 文部科学大臣  
茨城県知事 茨城県教育委員会教育長